

文学部
YOKOTA Fuyuhiko

PROFILE
職名
文学部 歴史学科教授
学歴
京都大学大学院文学研究科 博士後期課程国史学専攻単 位取得後退学（1981）
学位
博士(文学)(京都大学、1996)
所属学会
日本史研究会、歴史学研究 会、歴史科学協議会
専門分野
日本近世史

横田 冬彦

よこた ふゆひこ

研究課題1●日本近世社会文化史

研究課題2●日本近世・近代女性史

業績

【著書】

『講座日本歴史 5』/「職人と職人集団」、東京大学出版会、1985年3月、共著。

『講座日本技術の社会史 別巻1』/「中井正清―棟梁たちをひきいた大工頭―」、日本評論社、1986年11月、共著。

『八日市市史 第三巻近世』/八日市市役所、1986年3月、共著。

『日本の社会史 6 社会的諸集団』/「賤視された職人集団」、岩波書店、1988年6月、共著。

『日本都市史入門 3 人』/「近世都市と職人集団」、東京大学出版会、1990年3月、共著。

『日本の近世 7 身分と格式』/「近世的身分制度の成立」、中央公論社、1992年2月、共著。

『岩波講座 日本通史11近世 1』/「城郭と権威」、岩波書店、1993年12月、共著。

『五個荘町史 第二巻近世』/五個荘町、1994年3月、共著。

『ジェンダーの日本史・下―主体と表現 仕事と生活―』/『女大学』再考―日本近世における女性労働―、東京大学出版会、1995年1月、共著。

『日本社会の史的構造 近世・近代』/「<平人身分>の社会意識」、朝尾直弘教授退官記念会編、思文閣出版、1995年4月、共著。

『貝原益軒―天地和楽の文明学―』/「益軒本の読者」、平凡社、1995年12月、共著。

『家と女性の社会史』/「鹿子紋の女たち―近世後期京都周縁の下層女性―」、日本エディタースクール出版部、1998年3月、共著。

Women and Class in Japanese History /‘Imaging Working Women in Early Modern Japan’ Center for Japanese Studies,The University of Michigan、1999年6月、共著。

『京の鴨川と橋』/「昭和10年鴨川大洪水と『千年の治水』」、思文閣出版、2001年7月、共著。

『シリーズ近世の身分的周縁 2 芸能・文化の世界』/吉川弘文館、2000年7月、編著。

『シリーズ近世の身分的周縁 6 身分を問い直す』/「芸能・文化と<身分的周縁>」、吉川弘文館、2000年11月、共著。

『豊臣秀吉と京都―聚楽第・御土居と伏見城―』/「豊臣政権と首都」、文理閣、2001年12月、共著。

『日本の歴史 16 天下泰平』/講談社、2002年3月、単著。2009年9月、講談社学術文庫。

『京都の女性史』/「娼妓と遊客―近代京都の遊郭―」、思文閣出版、2002年10月、共著。

『天下人の時代―16～17世紀の京都―』/「町衆―<洛中洛外>の光と影―」、平凡社、2003年3月、共著。

『宮津市史』第二巻 通史編 下/宮津市、2004年3月、編著。

『日本史講座6』/「近世の学芸」、東京大学出版会、2005年3月、共著。

『彦根城博物館叢書 6 武家の生活と教養』/「武家の生活・文化と町人」、彦根城博物館、2005年12月、共著。

『歴史の描き方 1』/「近世の出版文化と<日本>」、東京大学出版会、2006年11月、共著。

『知識と学問をになう人びと』/吉川弘文館、2007年4月、編著。

『朝廷をとりまく人びと』/「禁裏大工」、吉川弘文館、2007年8月、共著。

『新しい歴史学と生業』/「生業論から見た日本近世史」、吉川弘文館、2008年3月、共著。

【論文】

「近世初期城郭の作事編成」/『日本史研究』213号、1980年5月、単著。

「幕藩制的職人編成の成立―幕府大工頭中井家の工匠編成をめぐって―」/『日本史研究』227号、1981年7月、単著。

「幕藩制前期における職人編成と身分」/『日本史研究』235号、1982年3月、単著。

「元禄郷帳と国絵図―丹波国を中心として―」/『文化学年報』4号、1985年3月、単著。

「近世村落における法と掟」/『文化学年報』5号、1986年3月、単著。

「はたらくことの近世史」/『神戸大学史学年報』4号、1989年3月、単著。

‘The Organization of Artisans in Pre-industrial Japan’ / *17th International Congress on Histrical Sciences* vol.2, International Comitee of Historical Sciences, Madrid、1990年8月、単著。

「近世社会の成立と京都」/『日本史研究』404号、1996年4月、単著。

「近世民衆社会における知的読書の成立―益軒本を読む時代―」/『江戸の思想』5号、ペリかん社、1996年12月、単著。

「江戸時代の在村医―伊丹市南野・笹山家の資料から―」/『地域研究いたみ』第27号、伊丹市立博物館編・伊丹市役所発行、1998年3月、単著。

「近世村落社会における<知>の問題」/『ヒストリア』159号、1998年4月、単著。

「『徒然草』は江戸文学か?―書物史研究における読者の立場―」/『歴史評論』605号、2000年9月、単著。

「近世武家政権と首都」/『年報都市史研究』9号、山川出版社、2001年10月。

「兵農分離社会の種姓的構造」/『部落問題研究』159号、2002年2月、単著。

「三都と地方城下町の文化的関係―書物の流通を素材に―」/『国立歴史民俗博物館研究紀要』第103輯、2003年3月、単著。

「身分的周縁論をめぐって」/『部落問題研究』172号、2005年4月、単著。

「『牢人百姓』依田長安の読書」/『一橋論叢』134巻4号、2005年10月、単著。

「『万暦家内年鑑』のこと」/『日本歴史』706号、2007年3月、単著。

「江戸時代民衆の読書」/『歴史地理教育』718号、2007年8月、単著。

「播磨から世界を見る―江戸時代の書物文化―」/『ひょうご歴史フォーラム』3号、2007年11月、単著。

【史料編纂】

『敦賀市史』史料編五巻/敦賀市役所、1979年3月、共編。

『敦賀市史』史料編三巻/敦賀市役所、1980年9月、共編。

『敦賀市史』史料編四巻 上/敦賀市役所、1982年3月、共編。

『敦賀市史』史料編四巻 下/敦賀市役所、1983年10月、共編。

『京都町触集成』第四巻/岩波書店、1984年7月、共編。

『京都町触集成』第十巻/岩波書店、1986年6月、共編。

『八日市市史 第六巻史料編2』/八日市市役所、1986年3月、共編。

『五個荘町史』第三巻史料1/五個荘町、1992年3月、共編。

『佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書』/思文閣出版、1996年12月、共編。

『宮津市史』第五巻史料編近世1/宮津市、1997年3月、編著。

『宮津市史』第六巻史料編近世2/宮津市、1999年3月、編著。